14江戸の卵は1個400円！（丸田 勲）

　　目には青葉　①山　②初

　山口の有名な句だが、江戸っ子はホトトギスの鳴き声を聞くと、そろそろ③の時期だと待ちわびた。

　もちろん初鰹ともなると高値で取引され、庶民にはお呼びでなかったが、それでも「女房を質においても……。」と江戸っ子は初鰹を食ベたがった。今では秋の戻り鰹のほうが脂が乗ってうまいとされるが、江戸っ子にとっては何が何でも初鰹、それをいち早く食べるのが心意気であり、でもあった。

　初鰹の値段だが、「月二五日初入荷、早船で一七本に入る。うち六本が将軍家へ、三本が料亭へ、値二両一分、残りが一般売り……。」（『』）との記述がある。二両一分は約28万８０００円だから、なんと鰹一匹で30万円近くもしたのだ！

　ここに出てくる［　Ⅰ　］とはでこぐ快速船で、「むかで船」とも呼ばれた。鎌倉沖、あるいは沖あたりでれた鰹を、［　Ⅰ　］でその日のうちに江戸まで運んできたのである。それもたった一七本となればこの高値も納得できる。

　そのうちに値も下がってくるが、それでも「初が五〇〇で鰹が五〇〇」と言われたほど、半分は［　Ⅱ　］に払う見栄の代金だ。しかし、一〇〇〇文（２万円）ではまだまだ④庶民の手には届かない。

　ところで、鰹は「ぐされ」と言われるほど⑤足のはやい魚で、鮮度が命。朝河岸に上がったばかりの鰹も午後になると値段は下がり、夕方には投げ売り同然の値段になって、長屋の連中でも手が届いた。ただし、生きの悪いのに当たると食中毒を起こし、医者に駆け込み、

　　恥ずかしさ　⑥医者に鰹の　値が知れる

　ということになる。

＊語注

＊三月…ここでは旧暦の三月。

問１　――線部①・②について、五七五を無視して「目には青葉」の形に揃えるとしたら、「山時鳥」「初松魚」の前にはどんなことばが使われるか。それぞれ漢字一字で答えよ。

①＝〔　　　〕には山時鳥

②＝〔　　　〕には初松魚

問２　――線部③について、「初鰹の時期」とはいつか。最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　初春　　イ　晩春　　ウ　初夏

問３　［　］Ⅰに共通して入ることばを文中から三字以内で抜き出して答えよ。

〔　　　 　〕

問４　［　］Ⅱに入ることばとして、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　虚栄心に対する価値

イ　香りに対する価値

ウ　初物に対する価値

問５　――線部④とほぼ同じ意味のことばを文中から一五字以内で抜き出して答えよ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

問６　――線部⑤の意味として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　すぐに腐ってしまう魚

イ　驚異の速度で泳ぐ魚

ウ　売れ行きがよい魚

問７　――線部⑥について、どんな「値」か。文中から九字で抜き出して答えよ。

〔　　　　　　　　 　　　〕

【解答】

問１　①耳　②舌（「口」も可）

問２　ウ

問３　早船（２字）

問４　ウ

問５　庶民にはお呼びでなかった（12字）

問６　ア

問７　投げ売り同然の値段

ポイント

問１　「目には青葉」は視覚。「山時鳥」は初音の鳴き声を耳にする聴覚。「初松魚」は食べて楽しむ味覚。

問２　「青葉・時鳥・松魚」はいずれも夏の季語。

問６　「足がはやい」は、通常の「走ったり、歩いたりするのがはやい」の他に、「売れ行きがよい」「（食物などが）腐りやすい」意の慣用句がある。